

# 観天 望気

## コロナ後の外食産業

ワクチン接種が加速する一方で、依然としてコロナの収束は見通せない状況です。インバウンド事業の喪失だけでなく、国内の消費需要は急速に減少し、外食産業はかつて経験したことがない厳しい経営を強いられています。

外食産業は人口減少、高齢化、人手不足など以前から抱える課題に加え、今後、コロナ禍でもたらされた新たな生活様式・行動様式の変化を受ける可能性もあります。

今夏の東京2020大会では、鍛錬を続けてきた世界中のアスリートたちに胸を熱くされた方も多いのではないのでしょうか。私ども外食産業は、大会の開催を特別な想いで期待していましたが、コロナ禍でなければ、訪日外国人の増加が加速し、日本の食やおもてなしのすばらしさを体験していただけたはずでした。それらの情報が世界中に発信され、訪日をさらに促すことができれば、わが国のインバウンド事業は大きな成長を遂げたものと思われまます。

コロナの収束がそう遠くない時期に来ることを信じて、これからの外食産業の課題を考えてみたいと思います。コロナ禍にあつては、時短営業あるいは営業そのものの自粛により人手不足の問題は落ち着いています。しかし、コロナの収束とともに業界の垣根を越えた人材獲得競争が起きるはずで、人手不足解消と生産性向上のための取り組みとしてAI・DX・ロボットなどの導入・活用が話題に上っています。おいしさとともにサービース、おもてなしを提供する外食産業にとって、こうしたテクノロジーの活用はあくまでもこれらの提供に一層集中するための方策であると考えます。

コロナ禍によって、社会、経済そして消費者の行動がどう変化していくのかわからない状況ですが、私ども外食産業は国民の生活において日常的に欠くことのできない産業であることをめざして、これからも努力していきたいと思えます。



### 赤塚 保正

一般社団法人日本フードサービス協会 会長

あかつか やすまさ

1963年生まれ。慶應義塾大学卒業。89年株式会社柿安本店入社。2006年同社代表取締役社長。16年5月日本フードサービス協会副会長に就任、20年5月同協会第19代会長に就任。